

「原子力耐震・構造研究センター」が発足

【第1回柏崎国際原子力耐震安全シンポジウム】、【市民公開講座を開催】

本学、東京電力株式会社、及び独立行政法人原子力安全基盤機構(JNES)が連携する産学官の共同研究施設「原子力耐震・構造研究センター」が平成22年11月に発足いたしました。原子力施設の耐震安全性に関する技術革新は、地震国である我が国の喫緊に取り組むべき課題となっており、平成19年7月に発生した「新潟県中越沖地震」の教訓を生かし、この柏崎の地で原子力施設の耐震安全の世界最先端の研究が行われることとなりました。本学は関係機関と連携して先進的な研究を推進し、研究レベルの向上を図り地域社会のニーズに応えるとともに、学生の教育にも反映させていきたいと考えております。この研究成果を国内外へ発信し、原子力施設の安全と安心、信頼性の向上に貢献したいと考えております。



第1回柏崎国際原子力耐震安全シンポジウム (H22.11.24~26 本学講堂)

【センターの主要設備】

3次元永久磁石地震波振動台
低サイクル疲労試験システム
SCCき裂進展評価システム
高度分析加工装置
3次元床免震装置



原子力耐震・構造研究センター外観

原子力耐震・構造研究センターの発足に際し、11月24日から26日までの3日間、原子力安全基盤機構、及び国際原子力機関(IAEA)の主催による「第1回柏崎国際原子力耐震安全シンポジウム」が、本学、東京電力、原子力安全・保安院の協賛のもと、本学において開催されました。世界各国から28カ国、約600人の研究関係者が集い、各種セッション、ワークショップとパネルディスカッションが行われました。新潟県中越沖地震や世界各国での大地震や津波などで得られた知見にもとづき、これからの原子力耐震の安全性の向上に生かす研究が発表され、参加者から活発な質問が出されるなど大変意義のあるシンポジウムとなりました。11月25日には、本学が主催する市民公開講座が開催されました。世界の一線級の専門家3人から下記のテーマについてお話しいただきました。市民・学生など180名が参加する熱気あふれる講座となりました。



市民公開講座の様子 (H22.11.25 本学)

【発表内容】

- 「世界の原子力発電と耐震」
アントニオ・ゴトイ氏 (IAEA顧問)
中越沖地震発生後、3回柏崎を訪問した詳細な調査の紹介
- 「米国の原子力発電と耐震」
アニー・カマラー氏 (米国原子力規制委員会、地盤・地震工学博士)
米国に於ける地震の発生メカニズムについて分かりやすく説明
- 「津波安全について」
アーメット・ヤルシナー氏 (トルコ中東魏技術大学海洋工学研究センター長)
原子力発電所がどの様に津波から防御するよう設計されているか説明